

1

(配点 : 100点)

以下の文章を読んで設問に答えよ (なお、この問題は法学的知識を問うものではない)。

大学のゼミで、次のような議論が行われている。

「自己決定権 (自身の生き方を、他人に干渉されることなく、自由に決める権利) は、広範に認められるべきものではあるが、それにも限界がある。例えば、自らをある人の奴隷とし、心身の自由を委ねる、いわゆる奴隷契約は、意見の分かれるところではあるけど、認められないとする説が多数派だ」

「その理由は何? 社会の常識に反するから、だとしたら、そもそも自己決定権そのものの否定になるよね。他の人の権利を害しないなら、認めても良さそうなものだけだ」

「そもそも『他の人の権利』の範囲だって曖昧じゃないか」

設問 この議論に引き続いて、教授甲と学生乙がやりとりしている。あなたは学生乙になったつもりで、以下の空欄 (1) (2) (3) (4) の答えを、それぞれ答案用紙5行以内で補充せよ。ただしその際、結論を先に述べ、その理由と予想される反論への応答を続けて述べよ。

甲「ちょっと乙さんに聞きたいのだが、君は有償の代理母 (依頼を受けた女性が、自分では妊娠・出産できない依頼者の代わりに妊娠し出産に至り、合意に基づく対価を得ること。出産された子は依頼者の子として扱われ、依頼を受けた女性とは無関係とされる) についてどう思う?」

乙「 (1)

甲「なるほど。では腎臓売買 (健康な人が、自身の2つある腎臓のうち1つを、腎不全で移植を必要とする患者に提供し、合意に基づく対価を得ること) についてはどうかな?」

乙「 (2)

甲「ふむ。この2つの例は、自分の健康上の問題を、別の人に対価を支払ってその身体を利用することで解決しようとする点で共通だ。しかし世界各国の例では、腎臓売買はほとんど禁止されているのに対し、有償の代理母は認めている国もある。その理由は何だと思う?」

乙「 (3)

甲「その、両者で扱いが異なる理由につき、君はどう思う?」

乙「 (4)

以上